

おぼろ月夜の館は、20 世紀前半に活動していた、日本の有名な作詞家で国文学者、高野辰之 (1876-1947) の業績を称えるための記念館です。高野は、国内の小学校で使われている唱歌のいくつかを作詞しています。彼が作詞したものには、世代を超えて歌い継がれ、今なお非常に人気のある「春がきた」(1910)、「もみじ」(1911)、「故郷」(1914) などの有名な曲があります。高野辰之記念館は館内の 1 階にあり、著作物、日記、手紙など彼の数々の作品や身の回り品の常設展示室となっています。特に目を引くのは、彼が使用していたオフィスの実物大のジオラマでしょう。高野はこの小さな温泉村で約 12 年間過ごしたので、野沢温泉とは特別の繋がりががあります。彼は 1934 年以降、1943 年に完全に野沢温泉に移住するまで、毎年夏に、麻釜近くの別荘「対雲山荘」に滞在していました。館内 2 階は展示物が定期的に入れ替わる特別展示室です。2 階に上がる際には廊下の大きな窓から、村の名産、野沢菜の畑が見えます。窓には精巧に作られたステンドグラスがはめ込まれています。3 階には休憩所が設置され、カラフルで巨大な灯籠のレプリカが飾られています。この灯籠は通常、毎年 1 月に行われる道祖神火祭りの際に使われるものです。飲み物やスナックが欲しくなったら 1 階に戻って隣接するカフェで一服するか、またはお土産の買い物をするのも良いでしょう。